

る。でもこの沢唯一の滝，シャワーで登る。

6つ目の堰堤を越えると，沢身はせばまり，ヤブでおおわれてくる。9:25車が入るほどの林道に出る。この林道は沢ぞいに続いており，林道を上を歩く。30分程歩くと，道もヤブでおおわれ，やむなくまた沢に入る。

ヤブの中をさらに40分程進むと，ほとんど水量もなくなり，遡行終了とする。 (記・)

[タイム] 滝沢出合(7:50)→遡行終了(10:40)

滝沢

シモノ沢

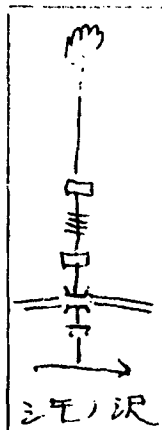
1987年8月30日

L

車で出合へ。6:50遡行開始。砂防ダムを2つ越えると沢に水がなくなり，遡行終了とする。たった15分の短い登りだった。

(記・)

[タイム] 出合(6:50)→遡行終了(7:05)

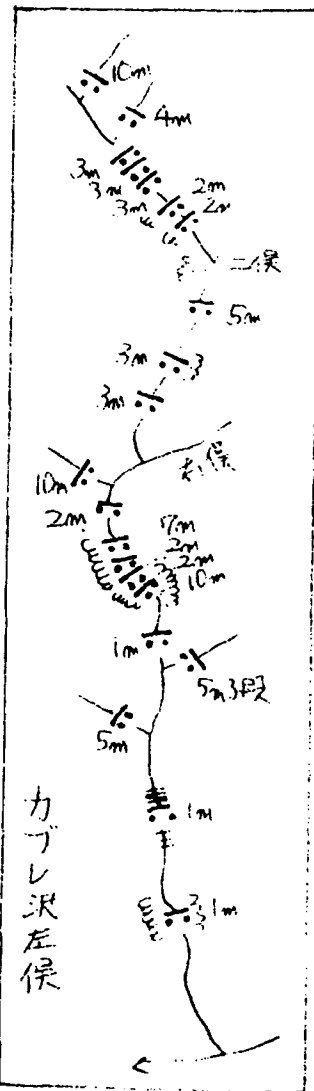


カブレ沢左俣

1987年8月29日

L

10:30下降開始。クマザサのひどいやブをかきわけながら進む。やがて細い沢筋の下りとなる。10m滝を慎重にクライミングダウンしたら，あとは落石が一杯つまった急峻な沢筋の下りとなった。右岸の崩壊地からの土砂が沢を埋め，せつ



カブレ沢左俣

かくの滝も半ば埋まっている。15分ほどの下った所で、左岸から沢を合わせ、傾斜もゆるやかとなってホッと息をつく。ここからは水量が急に増えた。

すぐに5mの滝。右岸をクライミングダウンする。このあとも小滝が続き、二俣となる。花崗岩質の岩となり、この先も滝が期待できそうだ。

やがてゴルジュ状となって、10mの滝がかかる。左岸を捲くようにして下る。この沢最大の滝だ。このあと落差のある滝はかからなくなったが、ゴルジュ状の部分などもあり、変化のある沢歩きが楽しめた。

12:45下降終了。 (記)

[タイム] 下降開始(10:30)→右俣出合(11:50)
→下降終了(12:45)

カブレ沢右俣

1987年8月29日

I.

8:05遡行開始。小さなゴルジュと小滝を越えて進む。やがてF, 10m。ここからがこの沢第一の核心部である。直登可能だが、右側から小さく捲く。その先の斜瀑を越えると二俣。右俣に入る。

ナメ滝群を過ぎると、また二俣。水量は少ないが、左沢へとルートをとる。

F, 2段滝を過ぎると、滝状のスラブとなる。100mくらいある。そしてその先は、連瀑帯である。7個の滝が続く。なかには20m程の落差をもつものもあるが、ホールド、スタンスともバッチリ。いずれも直登できる。快調である。

連瀑帯を過ぎると、ナメの二俣。もう水も少なくなっている。右に入ってすぐにヤブこぎ。30分程で尾根に出て、前沢の下降に移る。

()

[タイム] 出合(8:05)→左俣出合(9:05)→沢終

